

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272200157		
法人名	有限会社 グループホーム翁頭		
事業所名	グループホーム 翁頭		
所在地	長崎県五島市野々切町253番地1		
自己評価作成日	令和1年6月17日	評価結果市町村受理日	令和元年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者の生活を第一に考え行動するように職員間で協力しながら自立支援を目指しています。職員のストレスを軽減させるために職員とのコミュニケーションを持ちながら勤務時間や勤務体制など調整できるところは調整して楽しく仕事ができるように努力しています。おいしい食事を提供できるようになるべく手作りの温かい食事、おやつなどを提供しています、入所者の好みに応じた食事の提供を検討しています、1年に1回は外食へ出かけたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは玄関前にベンチシートを設け、入居者が海岸線や鬼岳を眺めてゆったりと過ごすことができるよう工夫している。職員は入居者の生活を第一に考え、思いを聞きながら支援することに努めている。毎年近隣の小学生訪問による歌や踊りの交流や、誕生日会などの行事にはボランティアによる日本舞踊の披露があるなど、地域と交流を図りながら入居者の笑顔に繋げている。ケア記録には入居者一人ひとりの短期目標を明記し、職員はプラン内容を意識しながら日々の実践に努めるほか、緊急時にも対応できるよう夜間帯は各ユニット職員が相互に協力し合う体制を構築している。ホームでは自己評価の実施に際して、ホームの課題点を随所に見出し問題意識を持って取り組んでいることが窺え、今後も入居者への支援の向上に期待が持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 あじさい棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際、その場にいる全員で理念・基本方針を唱和している。	ホームでは毎朝の申し送りの際にユニット合同で理念・基本方針を唱和し、職員間で共有を図っている。また、事務所やホールに理念を掲示し常に理念を職員に意識付けできるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食事の提供法を変えたことで職員の時間が増えたため、以前にも増して外出等の機会は増えており、より一般的な(地域の一員としての)生活に近づけられている。	ホームは町内会に加入しており、地域の広報誌が届くほか、毎年近隣の小学生訪問による歌や踊りの交流や、誕生日会などの行事にはボランティアによる日本舞踊の披露があるなど、地域と交流を図りながら入居者の笑顔に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けて特別に何か情報発信をしてはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は間違いなく行っているが、毎回サービス向上につながる意見交換ができていないかと聞かれると、あまりできていない。	運営推進会議は定期的に行われており、ヒヤリハット・事故報告や職員が研修に参加した際の報告も行われている。運営推進会議に参加していない家族には郵送で議事録を送付している。その一方で運営推進会議のマンネリ化を危惧している現状にある。	運営推進会議のマンネリ化を危惧していることを踏まえ、身近なテーマや議題を検討することが望まれる。テーマについては、例えば地域の駐在所や保健所の保健師などに年に1回参加してもらい、併せて家族にも参加を促すなど、より会議の活性化に繋がるよう今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係は築けているが、密な連絡は取れていない。	行政担当者とは運営推進会議を通して協力関係を築くよう努めているものの、担当者が1年毎に変わっていることもあり、密な連絡は取れていない現状にある。	制度改正や報酬改定が行われている昨今を踏まえ、ホーム側から行政へ向けて相談や質問、連絡を積極的に行うことで、より良いホーム運営に繋げていくことに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加して、内容を全体ミーティングにて報告。拘束を行わない介護を目指している。	ホームでは毎月の全体ミーティングでケアの実践内容を振り返り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。センサーの使用についても家族に同意を得て使用方法にも留意している。職員は身体拘束に関する研修会に参加し理解を深めている。尚、身体拘束適正化委員会の仕組みは整っているため、より明確な記録を残すことが望ましい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで勉強する機会があり、一定の知識を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在左記内容の勉強というのは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時や入居する際に契約内容の説明を行い、理解や納得される努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は主に面会時に意見・要望を聞き、運営に反映させている。外部へ表せる機会をこちらから設けてはいない。	家族によっては頻回に入居者への面会に訪れる方や、誕生日会に参加する方もいる。職員は家族の来訪時に入居者の現状を伝え、家族からの要望等を聞くようにしている。また、ホーム玄関に苦情箱を設置し意見収集に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの際に聞くことが多いが、普段から意見や提案は直接代表者に伝えられるような関係性ができている。しかし個別に聞くような機会は設けていない。	ホームでは月1回の全体ミーティングを通じて職員からの意見や要望を聞く機会を設けている。また、各ユニットのリーダーが職員からの意見等を取りまとめて管理者が確認することもある。夜間帯は緊急時にも対応できるように職員がユニット間で協力し合う体制を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等に関しては他事業所と大差なく、可もなく不可もなくといったところ。今後は個々に合わせたやりがいの設定などが課題である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や知識は把握できている。外部研修は積極的に参加を促し、全体ミーティングにて内容を発表してもらうことで、不参加職員へのフィードバックにも繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会の意見交換は行っているが、それ以外に別途集まって勉強会などの取り組みは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネは勿論のこと、各職員もご本人の思いや要望を傾聴し、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でご本人の介護度や家族構成、キーパーソンの所在地等を総合的に鑑みて、どこでどのようなサービスを受けるのが適切であるかということ判断できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で互いを思いやり、できること・できないことを見極めて、できないことを支援することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気になることなどを伝え、1回/1月メッセージカードで近況を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同郷の利用者や友人との会話・ゲーム等が定期的にできるよう努めている。	ホームには入居者の知人や友人の来訪があり、職員はゆっくりと会話ができる場を作る配慮を行っている。入居者の状態に応じてお盆の帰省や法事への参加、神父の訪問など本人の信仰心に配慮した支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人こまめに声掛けし、孤立感を感じさせないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された場合でも面会に行ったり、ご家族と会えた場合は経過を聞いたり相談事が無いかなど聞く努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人こまめに声掛けし、表情・体調の変化がないかなどの把握に努めている。	ホームでは入居者本人や家族から得た情報を職員間で共有し思いや意向の把握に努めている。ケア記録には入居者一人ひとりの意向や思いを汲み取った短期目標を明記し、職員はプラン内容を意識しながら日々の実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階で、ご本人やご家族からそれらの情報を聞き出し、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で入居者の変化する心身状態などを見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなく、その方に関わる全職員がモニタリングで意見交換し、現状最適と思われるサービスを提供できるよう心がけている。	ホームでは入居者一人につき2名の担当職員でケアプランの実践状況について評価し、全職員でモニタリングを実施し意見を交換し合っている。また、月に1回施設介護計画実行表に実施状況を記録し、プランの実践状況が分かるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等は業務日誌だけでなく、実行表やスタッフノートに記録して情報共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、可能な限りそれに対応できるようなサービスを提供できるよう、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学児童や老人会の慰問など、地域関係者の協力を常に感じながら支援ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医での受診だが、ご本人やご家族が希望する場合はそれ以外の病院も受診している。訪問診療を受けている方もいる。	ホームでは定期的にかかりつけ医への受診支援を行っており、入居者によって週に1回の訪問看護を利用している方もいる。また、月に1回訪問診療を受けている方がいる。ホームでは服薬手順のマニュアルを再整備し、誤薬しないよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた点や不安点があった場合、週一回の訪問時に相談をするようになっている。それ以外でも、緊急を要する場合等は4回/月相談可能なので、その規約を積極的に利用して適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	常に新しい情報を提供できるように利用者の情報は更新を繰り返し、それを提供するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思いは聞いているが、実際は実家で最期を…という方が少なくなく、その思いには応えられてはいないのが現状。	ホームでは看取りについての指針を整備し、昨年は実際に看取りを行っている。職員は看取りに関する研修に定期的に参加し、看取り実施にあたっての心構えを職員間で再度共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護の指示を受け、初期対応を落ち着いてできるよう、研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	3グループホームで協力体制を取り、避難訓練の段階から各々参加し、有事の際は協力し合うようにしている。	ホームでは近隣の3つのグループホームと協力体制を構築しており、消防訓練を実施する際には職員数名が相互に参加し取り組んでいる。職員は水消火器を使用した訓練を経験しているほか、勤務状況に応じた避難時の役割分担についても周知している。	消防訓練実施後の検証や反省点等について明確にし記録に残しておくことが望ましい。また、自然災害への対策の一つとして、ハザードマップを入手し危険箇所や避難ルートを確認できるようにすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に合わせた声掛け、自尊心を傷つけない言葉かけをしている。	職員は入居者への言葉掛けや対応方法について接遇マナー研修への参加や日々のミーティングを通して確認し、入居者一人ひとりを尊重した支援や対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望があれば聞き出し、選択する場面があれば、可能なものは自己決定できるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段でもご自身や、できない時は職員が整容できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、お盆拭きのお手伝いを喜んで引き受けて頂く利用者様もいる。	ホームでは入居時に入居者の嗜好を確認するとともに、入居後も会話を通じて必要があれば代替の食事を準備している。食事の下ごしらえや下膳をする入居者もおり、ケアプランにもその旨を明記し残存能力を生かした支援に繋げている。また、外食をする機会も設け、入居者の気分転換を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分毎日記録し、バランスの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態を清潔に維持するため、可能な限り毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄表に記録し、自立に向けた排泄支援をしている。	ホームでは排泄記録表に記録し、入居者の状態に応じた排泄誘導を行っている。おからパウダーやオリゴ糖を適宜使用するなど、便秘予防への工夫も行っている。排泄の失敗があった場合には、職員はその方の尊厳を損なわないよう配慮した言葉掛けに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘には気を使い、食事や水分量の調整を行っている。それでも排便停滞していた場合は、排泄表や水分摂取量を見直し、個々に応じた対策を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯をこちらが指定してしまっているのが現状。それでも、外出等で発汗が多い時やご本人が希望した場合は、できるだけ入浴支援をするようにしている。	各ユニットで入浴日を設定しており、ひまわり棟は月・水・金曜、あじさい棟は火・木・土曜で午後1時からとなっている。但し、入居者の希望があれば入浴できるよう配慮している。また、入浴の拒否や体調不良などがある場合は無理強いせず場所を変えるなど工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時その人の状況に応じて休息を促したりしている(夜不眠の方は日中休まれるように)。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を報告し合ったり、服薬の際は二人で確認し合って事故を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなこと、したい事など楽しみながら過ごせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との外出だけでなく、ご家族と共に外出する機会が設けられるよう提案したりしている。	ホームでは入居者の希望や状態、入浴日などを考慮し、買い物を通じた外出支援を行っている。馴染みの理容室に行く入居者もあり、家族にも協力を依頼し入居者ができるだけ外出できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	左記内容を各職員が理解しているとは言い難い。利用者の能力に応じて、お金を持って頂くことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきたり、ご本人から電話をしたいとの要望があればそのようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、できるだけ利用者が不快にならないよう音や臭い等に気を遣っている。季節感に関しては、壁に飾る折り紙等でその季節を想起させるような物を飾ったりしている。	ホームフロアは採光が良く、職員による季節に応じた飾り付けや訪問した小学生の写真や感想文が掲示されている。玄関前にはベンチシートを設けて入居者が海岸線や鬼岳を眺めてゆったりと過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者が、思い思いに過ごせるよう声掛けし促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には3畳分の和室を構えており、心落ち着く空間を演出している。また、ここへ入居前に使用していた物の持ち込みも促しており、ご本人が少しでも心地よく過ごせるようにしている。	居室は家族が宿泊を希望した場合に泊まれるよう対応している。室内にはマリア像を持ち込む方もおり、入居者の信仰心に配慮していることが窺える。箆笥の中の衣類は職員と入居者が一緒に整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	こちらからの支援はできるだけ最小限にとどめ、自立した生活を送れるよう支援している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ひまわり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を言う時間を設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校との交流や慰問を受け入れており、地域で行事があれば、行ける方は参加するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて情報発信をしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回活動状況を報告しており、運営にその意見を活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係は築けているが、密な連絡は取れていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで研修の場を作り、身体拘束をしないケアを基本にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在左記内容の勉強というのは行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居をする以前に契約内容の説明等を行っており、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のある時、意見・要望がないか聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案は反映されていると感じる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に不満はないが、現場職員全員がやりがいを持って仕事をしているかは分からない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量は把握していると思う。研修の機会も最近増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回の交流会はあるが、それ以外に勉強会などは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネは勿論のこと、各職員もご本人の思いや要望を傾聴し、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でご本人の介護度や家族構成、キーパーソンの所在地等を総合的に鑑みて、どこでどのようなサービスを受けるのが適切であるかということ判断できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の皮むきや新聞折り、トレイ拭きなど本人にできることはして頂き、利用者が一方的な被介助者にならないようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時、状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間がある時などは自宅を見に行ったりして、馴染みの関係が途切れないようしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支え合えるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員だけでなく利用者とも面会に行ったりして、関係性を壊さないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1回/2月のモニタリングの際、ご本人の希望や意向を再確認している。それ以外でもご本人の訴えがあれば、生活に反映できないか検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階で、ご本人やご家族からそれらの情報を聞き出し、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・心身状態など現状把握、職員間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者だけでなく、その方に関わる全職員がモニタリングで意見交換し、現状最適と思われるサービスを提供できるよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報共有はスタッフノートにて行い、日々変化する利用者にあった介護計画を提供できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時、消防団との連携による避難訓練を行ったり、地域住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って受診したり、適切な医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことがあれば訪問看護師に伝え、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に様子を見に行ったり、現状の把握に努めたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の判断がしっかりしている内は、家での最期を望む方が多く、その思いには応えられていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時に落ち着いた対応ができるよう心がけているが、初期対応の訓練などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域に三ヶ所施設があり、合同訓練を行っている。協力体制を敷いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格を掴み、各々に合わせた対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ドライブ、買い物、散歩など、ご本人がしたいことなどを自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かける際はご本人に服を選んでもらったりして、意思を尊重するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	トレー拭きや食器洗いをして下さる方もいる。生活で役に立っている喜びを感じられるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を取り、利用者の食事摂取量を把握している。栄養士はいないため完璧な栄養バランスとは言えないが、一般的に見て偏りの無いよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で記録し、確認しながら個々に合わせた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に繋がる水分摂取は気がけて声掛けし、オリゴ糖や牛乳等、その方に合う便秘予防を模索、実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では入浴日・時間帯を指定している。その上で利用者の「今日は入りたくない」「今入りたい」などの要望にできるだけ応えるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の利用者に合わせて過ごしているが、不眠の時はかかりつけ医に相談し、睡眠導入剤を使用したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬内容はファイリングし、各職員がいつでも確認できる所に置いている。それを確認しつつ、症状の変化等を見ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味嗜好・残存能力を理解し、行事やレクリエーションで活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は利用者が希望されたり、職員が声掛けしたりしてドライブ等に出かけている。ご家族自身から連れて行って下さることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	園内で預り金として管理している。近隣に使う場所が無いので、それを理解している方は特に訴えも無い。しかし持っておきたいと強く希望されたりする方もいるので、その時は渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話したい方にはかけてあげたり、ご家族からかかってきた場合は取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな音や光など、空間に急激な変化をもたらす刺激には、気を付けている。季節感等の演出は、壁や壁掛けタペストリーにその季節と分かるような装飾物を飾って表現している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味活動やテレビ鑑賞等、それぞれ思い思いに過ごされるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が好んで使っていた物や道具は持ち込んで頂き、できるだけ家にいた時と同じような感覚で過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行、杖歩行、手すり歩行、車椅子と身体に応じた生活ができるようにしている。		